

「CADL」がケアマネジメントを変える！

日本人と宗教との関係は微妙です。たしかに「あなたは何を信じていますか？」と尋ねられて即答できる日本人は稀です。それが他国の人から超フシギなこと。CADLでは、この「信心・信仰・宗教」も本人らしさ、生活スタイル＆価値観とつながる「やる気スイッチ」として重視します。

CADLとは？

文化的日常生活活動・行為 (Cultural activities of daily living) のこと。ICF (国際生活機能分類) に依拠し、参加・活動を含む日常生活で行う本人の「文化的な生活活動・行為及び要素」をいう。「自分らしさ」を尊重した「生きて在ることへの肯定」を、理論的に支えることを目指す。本連載の筆者高室しげゆき氏が提唱。



第18回 ～信心・信仰・宗教～

日本人の多くは実家の菩提寺の宗派もどこの神社の氏子(うじこ)なのか、ほとんど知りません。とはいえ、年間を通した恒例行事の多くが「宗教がらみ」なのに、それを意識しないぐらいに生活文化として浸透しています。特に年末はすさまじい。12月25日のキリストの生誕祭を「クリスマス」として祝い、正月になれば神社に初詣するのは「神道」でお年玉は「仏教」なのであります。なぜでしょう？

信心・信仰・宗教の「違い」

利用者(家族)が信心や信仰心、宗教を「人生の土台」として生きる人たちなら価値観や生活感・生活習慣、生きる意味ややる気スイッチ、看とりに至るまで深く影響します。

日本人の信心・信仰心には人によってかなりの濃淡があります。特定の宗教・宗派は持たない「カジュアルにつきあう人」たちがいます。願かけやお清めのときは「困ったときの神頼み」と称して神社でお祓いをしてもらい、ツキがうまく回るように「験(げん)を担ぐ(例:勝負パンツ)」、神社の鳥居や仏像の前ではとりあえず手を合わせる人たち(身体習慣化)です。

一方、確たる宗教・宗派の組織(教団)に属し、布教から生活様式すべてが教義や儀礼に基づいている「ヘビーで真剣な人」たちがいます。

これを分けるのは信心・信仰心のレベル感と宗教・宗派との「距離感」にあります。

- ・信心: 人間や自然を超越した力を広く「信じる心」や「敬う心」を意味します。特定の宗教に限定されず、日常生活における道徳的な行動(善行)や態度、生活動作や所作に現れます。
- ・信仰心: 特定の宗教・宗派に所属し、教団の教義や儀礼、祭礼、生活様式すべてを遵守し、神や仏などへの個人的な深い信念や信頼を意味します。このレベル感と距離感を情報収集しておくとはプランニングの時の参考になります。

特定の「教団」に属する心理

では、信心や信仰心の厚い人は、なぜ特定の宗教や宗派に魅かれるのでしょうか。宗教・宗派を表明する人にも生業とする人(僧侶、神父、神主)から一般の人までさまざまです。宗教・教団は無数にあり、日本の伝統宗教は仏教系、神道系、キリスト教系に分かれ、大正・昭和期の新宗教ブームでは「新興宗教」(天理教、金光教、真光教ほか)が多数生まれました。

特定の教団に所属する人の心理には「やる気スイッチ」があふれています。

○所属感とアイデンティティの形成:

信者は教団に属することで、共同体の一員であるという強い「所属感」を得られ、アイデンティティ形成と精神的な安定や安心感をもたらします。人間関係が苦手な人が惹かれる由縁でもあります。

○共通の信念と価値観の共有:

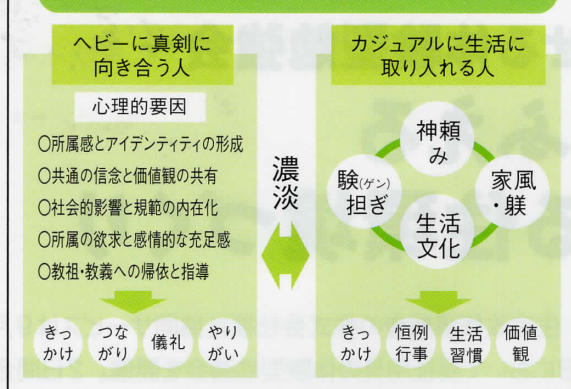
教団の教義や価値観により抱える悩みや不安が解消され、それが自らの信念と一致すると信者は自分の世界観が支持さ



高室しげゆき <https://caretown.com/>

ケアタウン総合研究所 代表 (ケアプラン評論家)
京都市出身。日本福祉大学社会福祉学部卒業。2000年、ケアタウン総合研究所設立。ケアマネジャーを始め地域包括支援センター、行政、施設等にケアマネジメントを軸とした幅広いテーマで研修、コンサルテーションを行う。近著に「目標思考型介護予防ケアプラン記載事例集」(共著・日総研出版)「利用者・家族に伝わるケアプランの書き方術」(中央法規出版)、「地域ケア会議コーディネートブック」(第一法規出版)など著書多数。

信心・信仰・宗教（教団）のレベル感



まとめ課題

ユミエさん（76歳・女性・独居）
（要介護2・軽度認知症・脊柱管狭窄症）
（クリスチャン歴30年、山井キリスト教会）

来年のクリスマスに山井キリスト教会で手作りのゴスペル衣装で讃美歌を歌うために信者さんの協力で、毎週、ゴスペルレッスンに通う

- ①クリスマスには山井教会で讃美歌を歌いたい
- ②20分間立った姿勢で歌って踊れる
- ③得意の洋裁でゴスペル衣装を手縫いする
- ④信者仲間の協力で毎週の日曜礼拝後のゴスペルレッスンに参加する

まとめ課題

れている（承認欲求）と感じます。これは心理的な満足感や一体感を強化します。

○社会的影響と規範の内在化：

教団は教義や儀礼を通じて、信者に特定の行動規範や価値観を強く説き、信者は教義を次第に自己内在化します。教団内において信者間の協調性と同調性は高まり、関係性は深まります。

○所属の欲求と感情的な充足感：

信者間では礼拝や儀式、集会、布教、日曜学校、ボランティアなどの共同活動を通じて所属の欲求（感情的満足）が満たされ、同じ行動で高揚感を得ます。これが教団への帰属意識をさらに強めます。

○教祖・教義への帰依と指導：

宗派・教義にはカリスマ的な教祖や導師の存在（キリスト、仏陀など）があり、教義や経典のなかに示される「崇める存在」（阿弥陀如来、観音菩薩）に帰依し、そこに示された教えを指針とします。

生活にメリハリをつけてくれる神道・仏教の「風習・習慣」に着目

教義にがっちり帰依しないカジュアル系の人たちでも、神道の風習である門松や節分、七五三や初節句、厄払い、年齢祝い（卒寿、白寿）を大事にする人は大勢います。仏教ならお葬式や墓参り、彼岸などの「先祖供養」や煩惱を消し去る除夜の鐘が定着しています。キリスト教ならクリスマスが筆頭でしょう。

信心・信仰の「まとめ課題」のプランニング・ポイント

信心・信仰をまとめ課題にするポイントは宗教・教義への帰依と距離感、濃淡（グラデーション）のレベルに合わせて行います。ヘビーで真剣な人なら由緒ある寺院・神社・教会への訪問や教義・儀礼の実践（例：写経、座禅、読経、参拝、説教）、カジュアルな人なら恒例行事への参加や見学、参拝などで組み立てます。

①行先・時期（期間）・目的・顔ぶれ・方法を決める

訪れたい寺院・神社・教会だけでなく身内の儀式（結婚式、初詣）や身内の年忌法要などから計画を組み立てます。

- ・行先：市区町村内、都道府県内
- ・期間：日帰り、数日間
- ・時期：恒例儀式の日程に準じる
- ・目的：年忌法要、墓参り、厄払い、初詣、七五三、初節句、クリスマス
- ・顔ぶれ：檀家・信徒・信者、家族
- ・移動方法：自家用車、タクシー、介護タクシー、電車、バス等

②必要な心身の機能と体調、サポートをシミュレーションする

要介護高齢者は複数の疾患があり体調管理は必須です。参拝するために必要な心身の機能と体力・体調、車いすや介助者の有無、医療サポートのレベルなどを情報収集します。

・心身の機能：座位・立位、歩行、上肢

の動作域、手先の巧緻性（合掌）、咽喉頭機能や構音・発声機能（読経）

- ・体力・体調：日帰り、数泊など
- ・サポート：車いす、介助（移動、排泄）、看護、緊急時の医療対応機関、信者・信徒の中の協力者

③準備期間を見積もる

準備期間は気候が安定する春・秋、恒例行事の時期（年末、年始）、年忌法要（身内・友人の命日）などでおおよそ決まります。信心・信仰はとてもプライベートであり、介護保険では対応できません。民間の送迎サービスなどを情報提供し、必要に応じて本人・家族・信者の話し合いに参加するのもよいでしょう。

- ・環境への配慮：階段数、手すり・スロープの有無、砂利道・踏み石の有無などのバリアフリーレベルの把握

④語り合い盛り上がる

「儀礼・参拝・礼拝」で得られる充実感や幸福感を語り合います。記念写真や記念動画、記念品（御朱印帳、おみくじ、お守り）などがあれば後々になっても会話は盛り上がりやすくなります。

信心・信仰を通して浮き彫りになる「本人らしさ＝CADL」はリアルで心躍るもの。まさにやる気スイッチです。

※まとめ課題：意欲動機づけシートなどから抽出された複数の課題をひとつにまとめた課題。（同連載2023年5月号参照）

▶意欲動機づけシートはケアタウン総合研究所ウェブサイトよりダウンロードが可能
https://caretown.com/write/dl/bo_kaigyobou.pdf